



配送センター管理制御システム

流通は生産と消費の間を媒介する役割を担い、経済活動の効率化を進めるうえで、きわめて重要な性格をもつ。

流通は、取引活動における情報機能を主体とした商的流通とこれに伴って生ずる物の輸送、保管を主体とした物的流通に分かれるが、日立はそのシステムとして生産から消費に至る経済活動を包括してとらえ、需要動向の多様化に対応する柔軟性をもった流通全体の最適運営管理を目ざしている。これには工場における在庫および配送管理、また販売店における情報処理の充実が必要であり、これによって安定した物資の供給体制が確立される。

最近、流通部門の合理化は急速に進み、新しい流通システム自動化倉庫な

どが次々に誕生しているが、昨秋完成した日産自動車株式会社相模原部品センターは、世界最大と言われる規模を有し、入出庫制御に関する高度な運用スケジュール、複雑多岐な倉庫情報処理、大容量ファイルによる高速処理プログラム、各種のマンマシンシステムなど数々の新しい技法が導入され日立の流通システム技術の優秀性を立証した。

相模原部品センターは自動車部品を集中的に管理し、海外および国内に配送する流通センターで建屋面積約19万^m2全4棟のうち2、3号棟は高層自動化倉庫であり、コンピュータにより入出庫作業が無人化するとともに、格納効率も大幅に向上している。

部品センターでは、諸種の情報に基づいてサービス部品の入庫から出庫までの在庫管理と物流の制御がコンピュータによって行なわれる。送られてきた部品を受け入れ、検査する。パレットに積み、棚(たな)に格納する。出荷に際しての梱(こん)包作業の一部を先行して梱包、再入庫しておくスケジュールも用意されている。格納棚からの出し入れや梱包場所へのコンベヤによる輸送はすべてコンピュータ制御である。

相模原センターは現在約十数万点にのぼるサービス部品の受入れ、格納、配送という流通ネットワークの中心的役割での活躍を開始している。

